

ホテル学校だより

秋の鳥川で里山の自然を満喫！ 山歩きイベント&あるく・まなぶ・あそぶ in とっかわ



平成 28 年 11 月 5 日（土）、岡崎市ホテル学校で鳥川ホテル保存会主催の「ホテルの里の山歩きイベント」が開催されました。ホテルを育む水の源である森林について、山歩きを通じてより多くの方に親しんでもらうことを目的として毎年開催されており、多くのリピーターが訪れる人気行事です。保存会の方のガイドに従って 4 コースに分かれて出発。雲ひとつない秋晴れの空のもと、150 名を越える参加者が里山歩きを楽しみました。



東京オリンピック正式種目「ボルダリング」

さらに午後からは別イベント「あるく・まなぶ・あそぶ in とっかわ」も開催されました。鳥川の自然に魅せられた有志が立ち上げた「鳥川を遊びつくす会」の主催で、鳥川の自然に親しみながら楽しく健康づくりをすることを目指した今年初となる取り組みです。

里山ウォーキングやボルダリング

（壁登り）、スラッグライン（綱渡り）、ドングリを使ったクラフト、5 種類の体力測定、ネイチャーゲーム体験、地場製品の販売などさまざまな企画が用意され、幼児からシニア世代までなんと 450 人が訪れました！

鳥川の名水でいれたコーヒーや鳥川産の炭で焼いたやきいも、猪肉ソーセージ、猪と鹿の肉が入った猪鹿汁など、ここでしか食べられない飲食ブースも大人気で、皆さんすっかり鳥川を遊びつくしていました。

地域住民の手で大切に守られてきた鳥川の自然が多くの人を惹き付け、さらに大きな人の輪へと広がっているのが感じられた一日でした。



いつの時代も自然遊びは子どもたちに大人気！

ホテル学校歳時記（No. 11）

ホテルの幼虫飼育は 酸素不足に要注意！

全国ホテル研究会の初代会長「南喜市郎」さんの時代にはエアープンプが無く、ゲンジボタルの幼虫を飼育する水盤の水を毎日 3 回交換されていた。昭和 40 年代になってエアープンプが一般に普及し、ホテル幼虫の飼育容器にも組み入れられ、今日に至っている。



エアープンプでしっかり酸素を送り込む

幼虫の飼育において酸素不足は飼料の不足より弊害が大きく、注意が必要である。室内飼育、屋外飼育と場所により環境の変化が異なり、命を預かる以上、管理や対応も細やかな気配りが大切である。

水深や容器の体積により変化があるが、エアーストーン数は 30 センチ四方に 1 つはほしい。給水や換水は週 3 回以上行い、補助材として「カキガラ・石灰岩・木炭・竹炭」の交換や補給を忘れないようにする。エアーストーンも老化するので、半年に一回は交換すること。幼虫の成長につれて酸素補給も多くしたい。

カワナや幼虫の行動を毎日観察して、即座の対応が必要になるのでよく注意すること。上記の点検は「幼虫の生育調査」の折に点検すると効果的である。いずれにしてもホテルの飼育はきめ細かい対応・臨機応変な対応が必要であることを忘れてはいけない。

（ホテル学校名誉校長・古田忠久）

岡崎ゲンジボタル河合保存会 50周年記念式が開催

昭和41年に始まった河合学区のホタル保護活動が50周年を迎えたことを記念し、11月15日（火）、岡崎市立河合中学校で記念式典が開催されました。岡崎ゲンジボタル河合保存会の鈴木会長から

は、激減したゲンジボタルの復活を目指す取り組みの歴史が紹介され、河合中学校の自然科学部からは、長年のホタル保護活動を通して全校生徒の環境保全に対する意識が高まったことなど



活動を力強く発表する自然科学部の部員たち



独自の子育て論を熱く語るチチロー

どの成果について発表がありました。後半は、日本を代表するメジャーリーガー「イチロー」選手のお父さん「チチロー」こと鈴木宣之氏のトークライブが行われ、若いときからしっかりと目標を持つことの大切さ、また、自分を支

えてくれる家族や身近な人への感謝の気持ちを行動に表すことが大切であると語られました。

地域と学校教育の中に受け継がれるホタル保護の精神とその取り組みは、世代を超えて河合学区の大きな「宝」となっていると実感しました。（環境保全課・山之内）

クワガタ飼育奮闘記

私がホタルとともに好きな昆虫が「クワガタ」です。精悍なルックスが気に入っています。4月からホタル学校に勤務するようになった私は、ホタル同様、クワガタもたくさん見られると楽しみにしていたのですが、この夏、ホタル学校で見かけたクワガタはたったの4匹だけでした…。

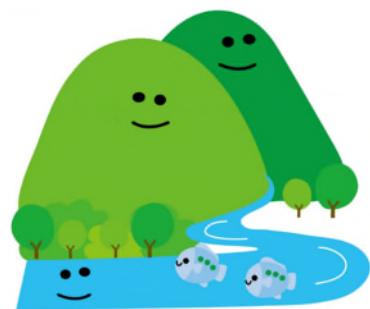
薪の需要が減り、雑木林がスギやヒノキの人工林に変わり、それもまた荒廃している今、クワガタが安心して住める環境が少なくなっているのでしょうか。何十年か先に森が再生されたとき、クワガタはもう絶滅していた…と言うのでは辛すぎますので、ホタル飼育のかたわら、繁殖を試みることにしました。産卵床を組んで飼育していたところ30匹ほどの幼虫がかえりました。一年で成虫になるゲンジボタルと異なり、クワガタは成虫になるまで2～3年かかる場合もあるので気長に育てていきます。いつの日か豊かな里山が再生されることを信じて。（ホタル学校・神谷）



飼育容器内で大きく育つクワガタの幼虫

ホタルを育む森の秘密② ～生命の源である水、水の源である森～

川底で9か月間、幼虫時代を過ごす「ゲンジボタル」にとって、川の水量と水質が一年中安定していることは生息のための基本条件です。私たち人間もまた、水がなくては生きていくことはできず、水はまさに「生命の源」です。では、その水は一体どこからやってくるのでしょうか？川を水源までずっとさかのぼって行くと、森の土から少しずつ水が浸み出しているのを確認することが出来るでしょう。森は、雨（水）をフカフカした土の中に



貯めこんで、ゆっくり流してくれているのです。この森の働きは「緑のダム」とも呼ばれています。しかし、間伐が遅れて木が密生しすぎた森では、地表に光が届かないため他の植物が育たず、土がやせてしまいます。すると雨が降っても水が浸み込まずにすぐに流れてしまい、一緒に土砂も削られていきます。これが近年多発している洪水や土砂災害の大きな原因になっています。森林環境の保全はホタルにとっても人間にとっても命に関わる大問題なのです。次回は森林再生に向けた取り組みをご紹介します。（ホタル学校・唐澤）